県立広島大学大学院総合学術研究科における大学院生の教育研究環境に関するアンケート調査報告（令和７年度実施）

【実施概要】

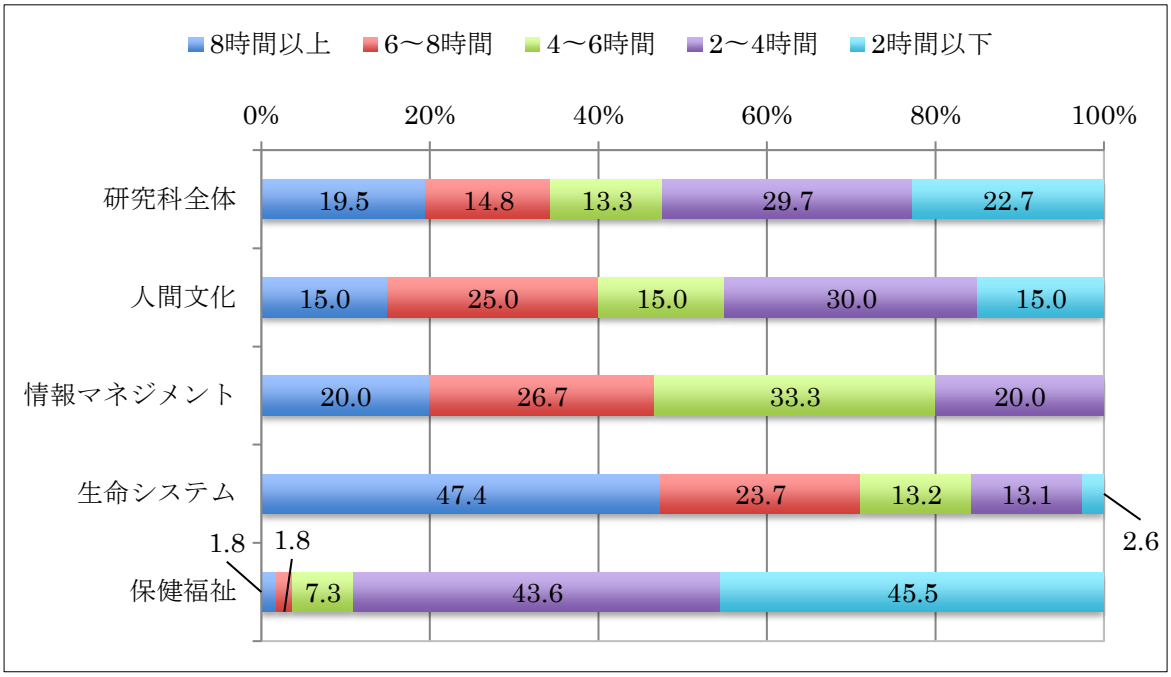
実施期間　令和８年２月５日（木）～令和８年３月１０日（火）
アンケート対象者：147 名　（人間文化学専攻 25 名、情報マネジメント専攻 15 名、生命システム科学専攻 45 名、保健福祉学専攻 62 名）
回収数：128 名　（人間文化学専攻 20 名、情報マネジメント専攻 15 名、生命システム科学専攻 38 名、保健福祉学専攻 55 名）

令和７年度アンケート調査では、総計 128 名（87.1%）の院生が回答した。専攻毎の回収率は、人間文化学専攻 80.0%、情報マネジメント専攻 100%、生命システム科学専攻 84.4%、保健福祉学専攻 88.7%であった。

※令和６年度回答率：研究科全体（51.9%）、人間文化学専攻（82.6%）、情報マネジメント専攻（100%）、生命システム科学専攻（53.6%）、保健福祉学専攻（33.3%）

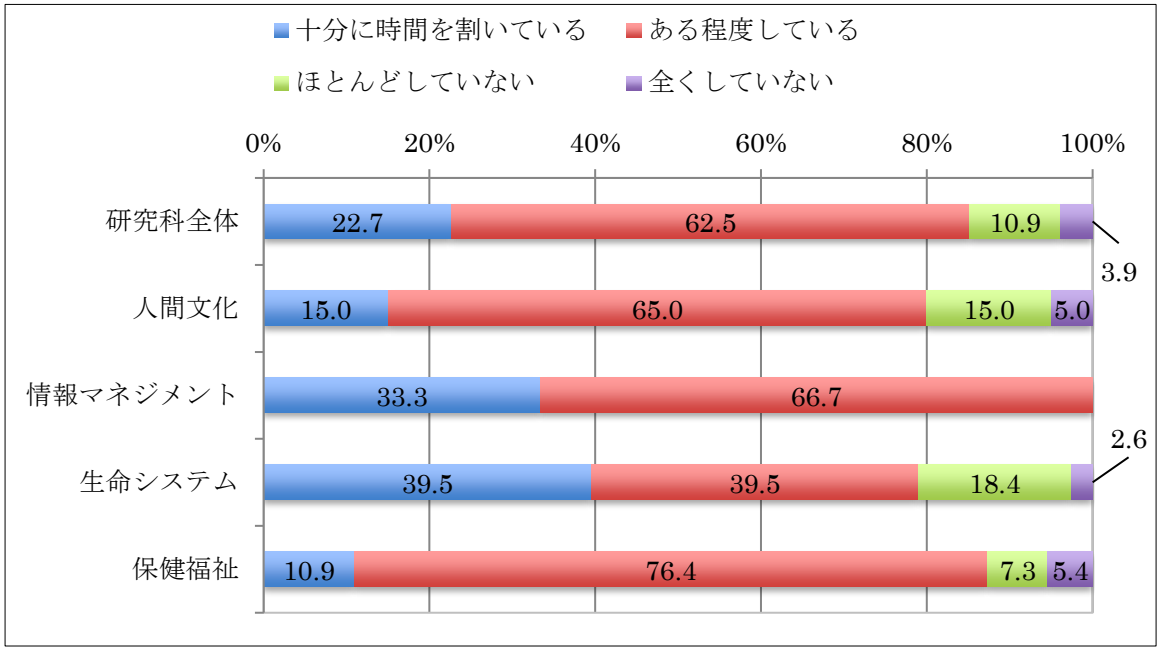
【学習・研究・授業に関する質問】

１．あなたが学修や研究に充てる１日あたりの時間。



【備考】
学修や研究に充てる１日あたりの時間については、専攻の特性により分布が異なっている。
保健福祉学専攻など社会人の多い専攻では、１日あたりの学習や研究にあてる時間が少なくなっているが、長期履修制度の活用により計画的に教育課程を履修し、研究時間を確保している。

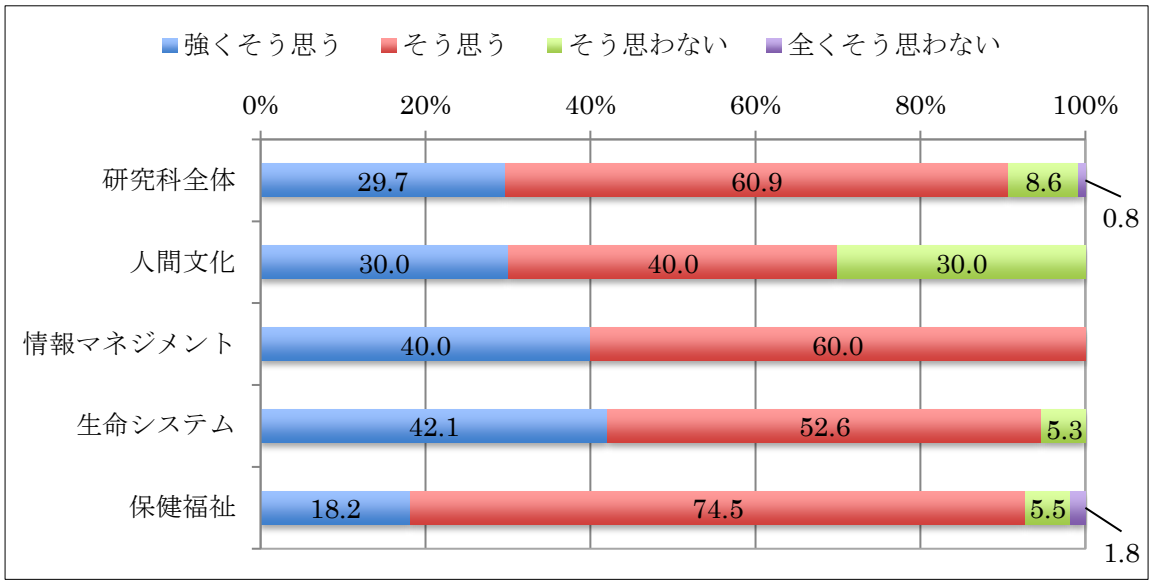
２．履修している授業のために、授業外学修（課題、準備、復習等）をしている。



【備考】

研究科全体で肯定的な回答は 85.2%であった。
いずれの専攻も 80%以上の学生が「十分に時間を割いている」「ある程度している」と回答しており、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

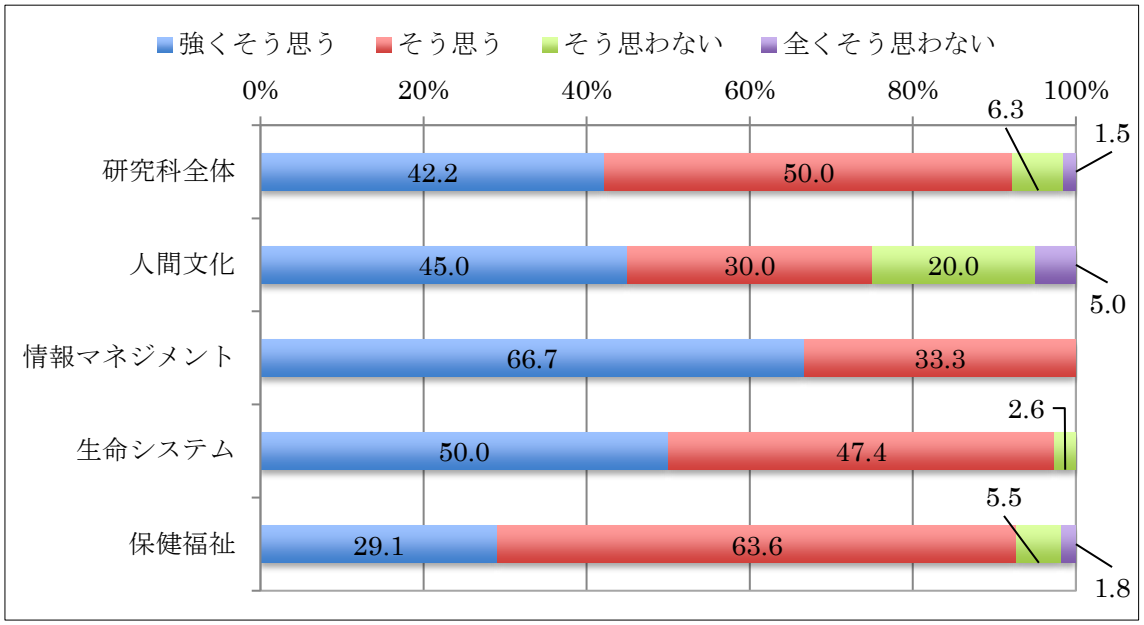
３．あなたが履修した、又は履修している授業は、目標が明確で体系的に行われている。



【備考】

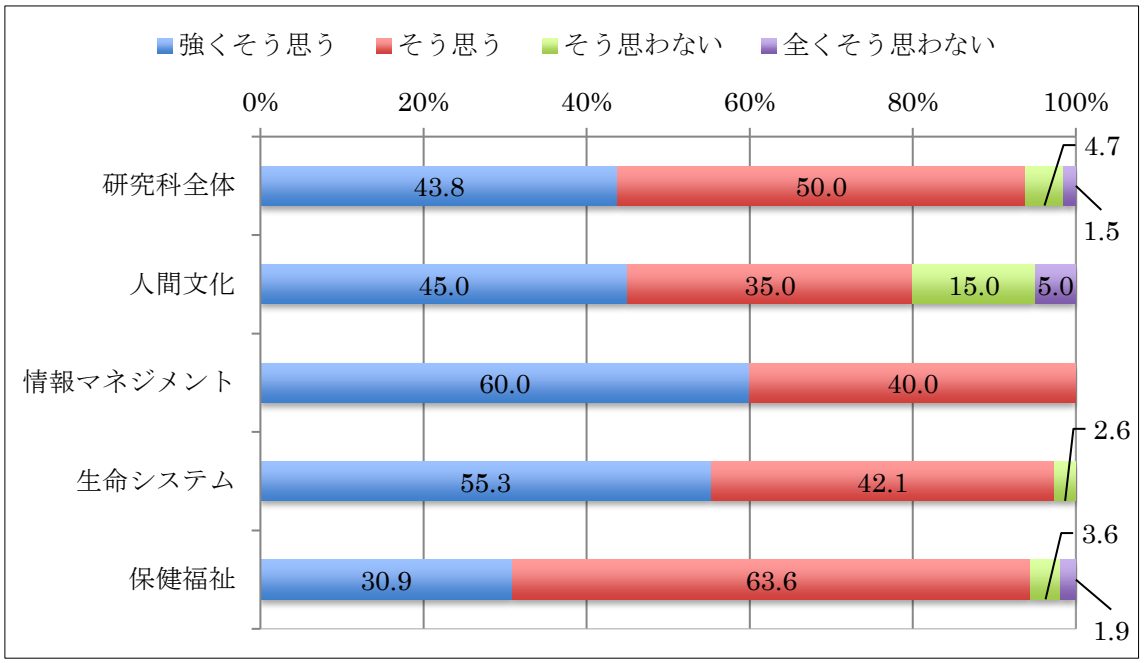
研究科全体で、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した割合は 90.6%であり、授業の目標は明確で、体系的と感じている。一方で、人間文化学専攻で 30.0%が、「そう思わない」と回答しており、授業目標の明確化と体系化についての改善が求められている。

４．教員の授業に対する準備は十分で、内容がよく整理されている。



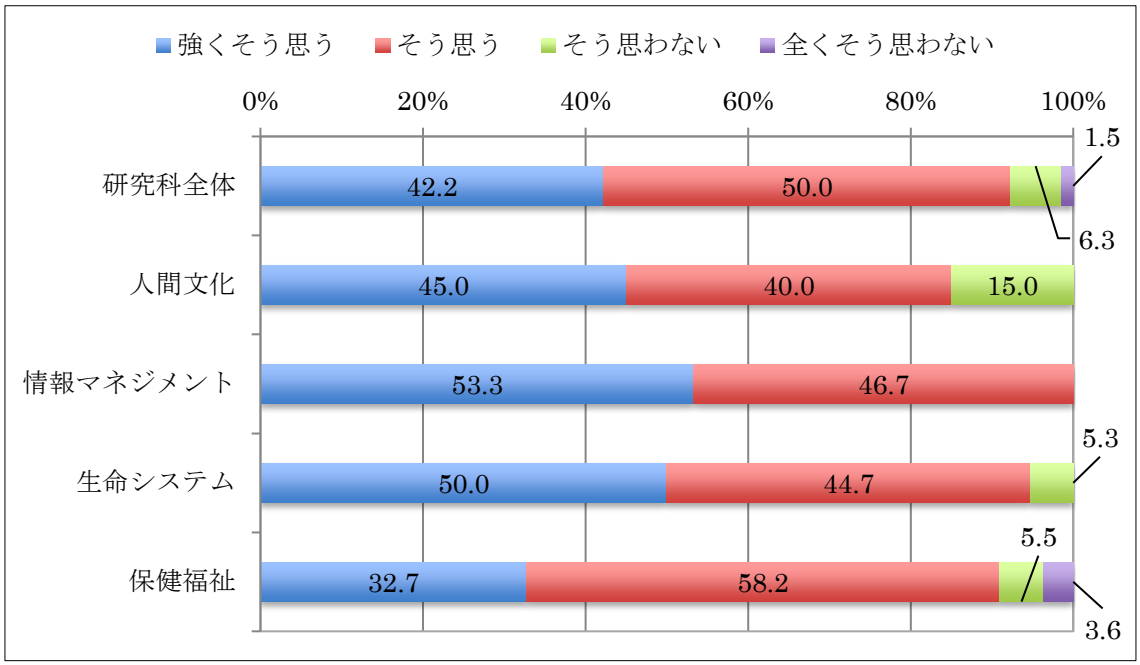
【備考】
研究科全体で肯定的な回答は 92.2%であった。
いずれの専攻でも肯定的な回答はおおむね約 75.0%以上となっている。

５．教員の研究内容や専門領域が伝わる良い授業が行われている。



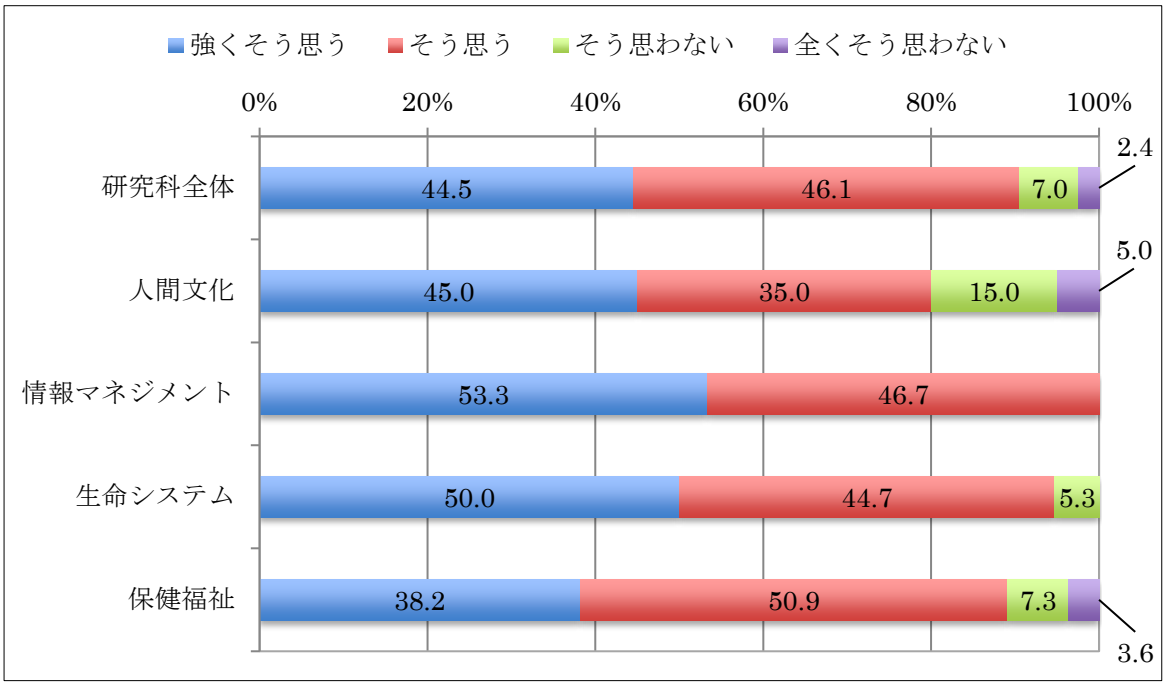
【備考】
いずれの専攻でも「強くそう思う」または「そう思う」と肯定的な回答をした割合は 80%以上となっており、研究内容や専門領域の伝わる良い授業であったと感じている。

6．授業内容は大学院の授業として適切に行われている。



【備考】
いずれの専攻でも、85%以上が授業内容は適切であると肯定的に回答している。

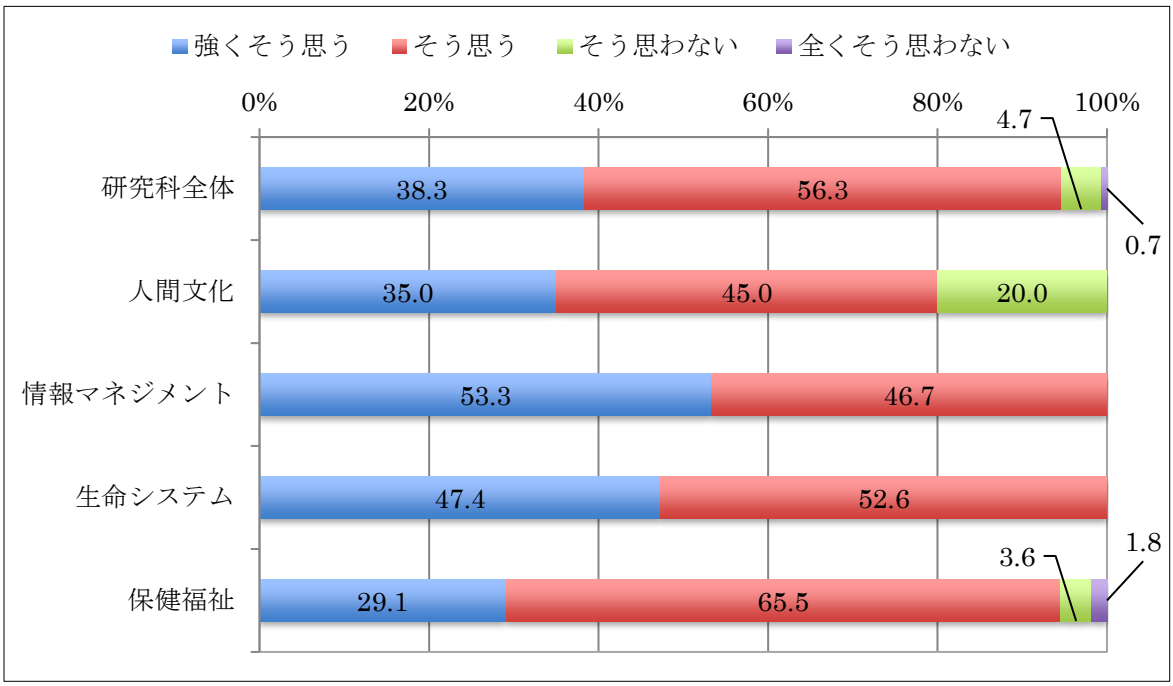
7．授業に関し、教員の熱意が感じられる。



【備考】
研究科全体では、教員の熱意が感じられるかという質問に対して 90.6%が「強くそう思う」または「そう思う」と回答している。

【成績評価に関する質問】

８．授業の成績評価は適切に行われている。



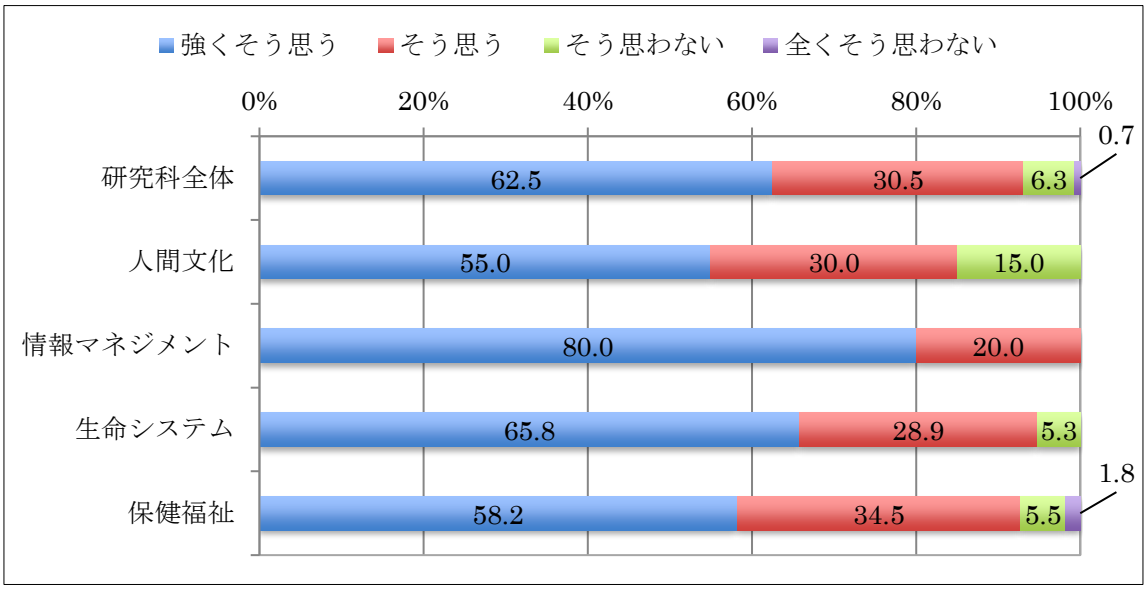
【備考】

研究科全体では、肯定的な回答は 94.6%であった。

情報マネジメント専攻、生命システム科学専攻において 100%が授業の成績評価は適切に行われていると回答した。

【研究指導に関する質問】

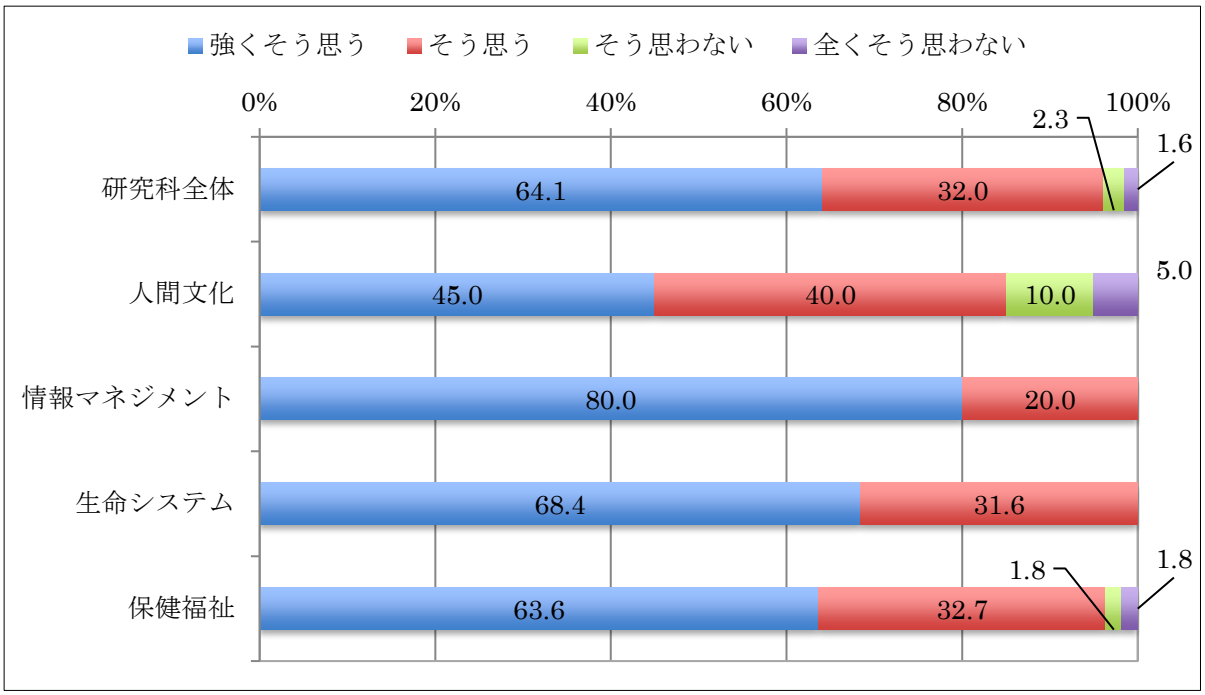
９．専攻での研究指導は適切に行われている。



【備考】

研究科全体では、93.0%が満足しており、研究指導は適切に行われている。

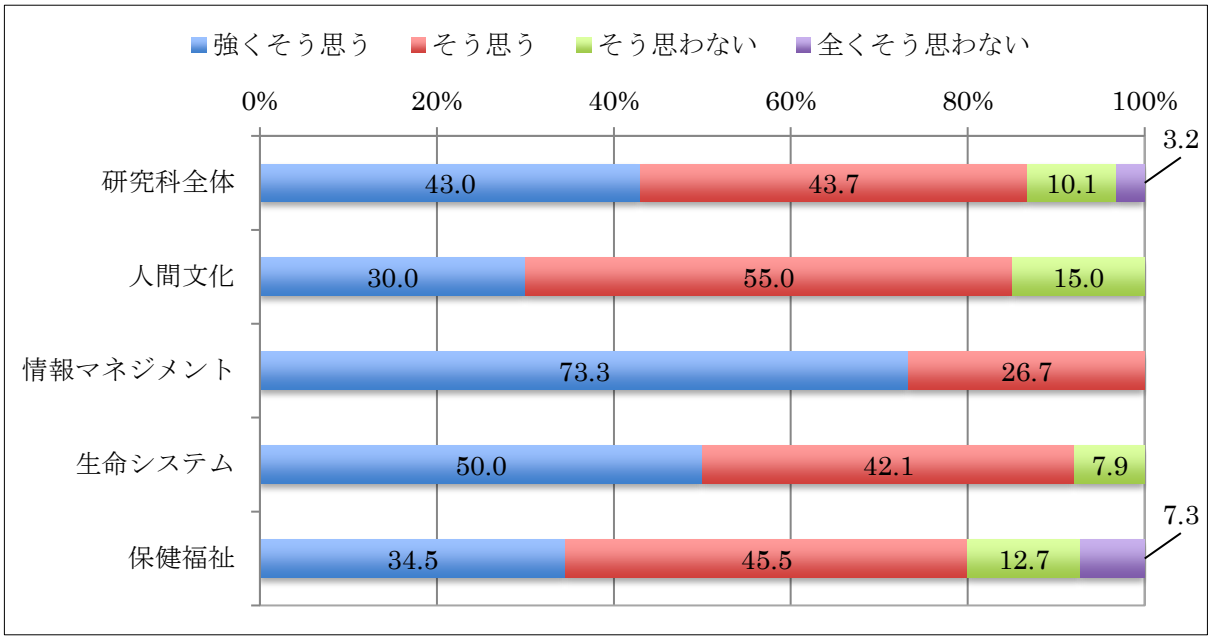
１０．現在取り組んでいる研究テーマに満足している。



【備考】
研究科全体では、96.1%の学生が研究テーマに満足している。

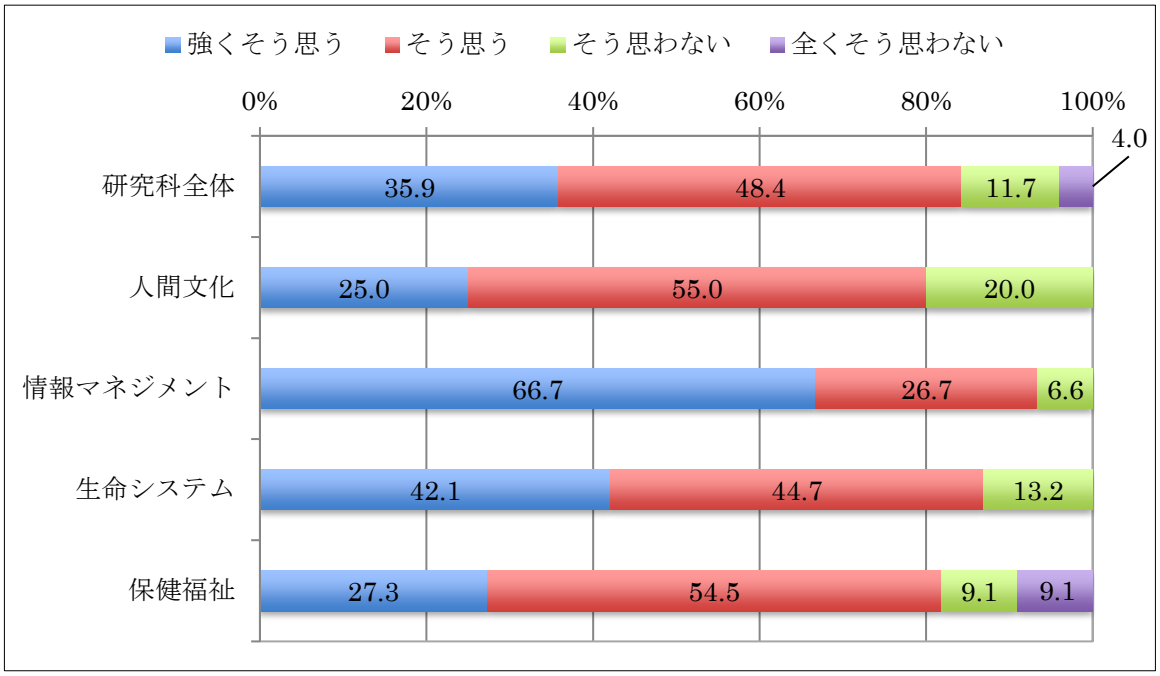
【研究環境に対する質問】

１１．あなたの研究環境（実験室）は、質・量ともに良好だ。



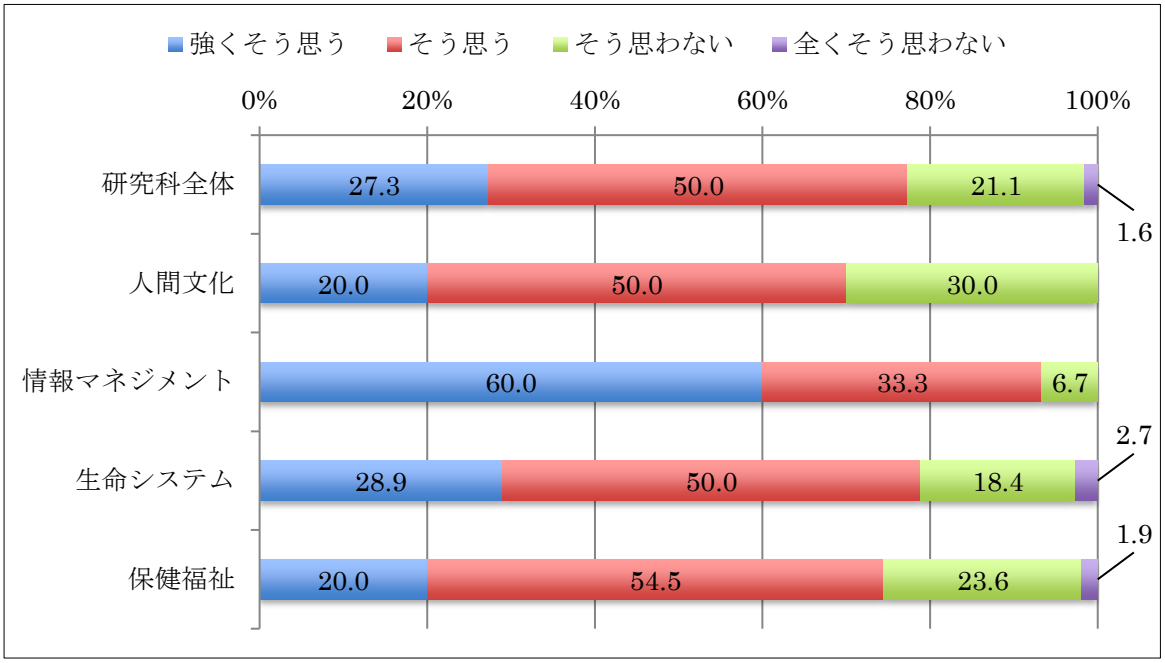
【備考】
研究科全体では、86.7%が肯定的に回答している.

１２．あなたの研究環境（実験機器）は、質・量ともに良好だ。



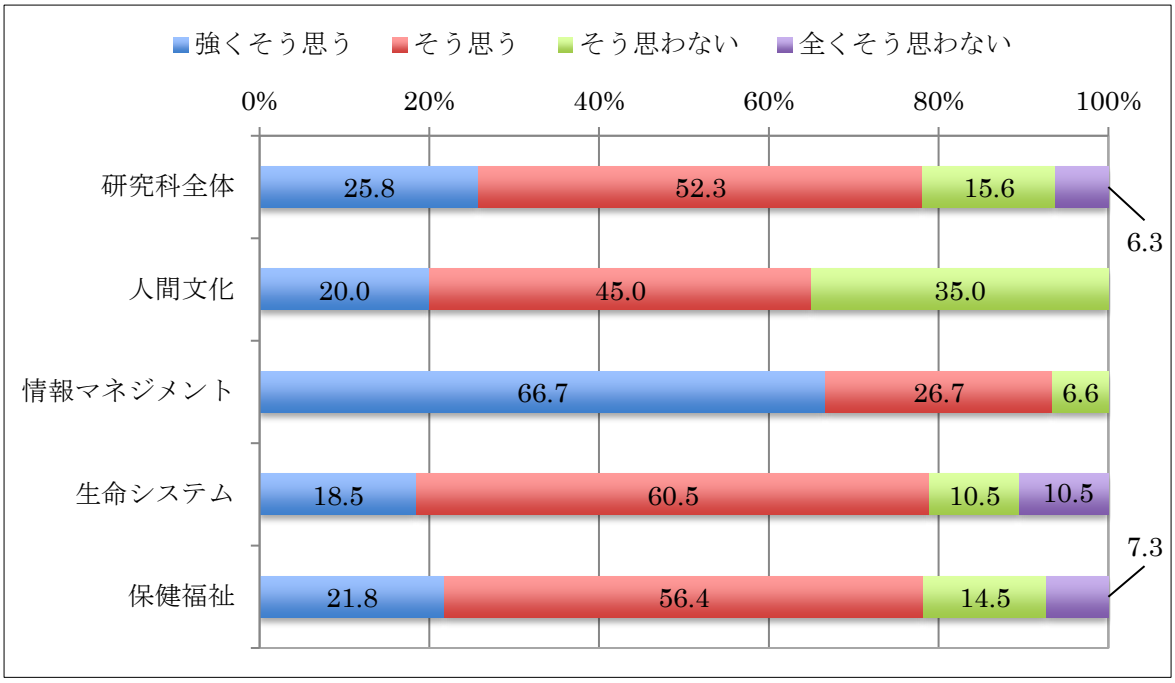
【備考】
研究科全体では、肯定的な回答が 83.3%であった。

１３．あなたの研究環境（図書）は、質・量ともに良好だ。



【備考】
研究科全体では、肯定的な回答が 77.3%であった。 一方で、人間文化学専攻では 30%が「そう思わない」と回答しているので、研究環境（図書）の充実について改善が求められる。

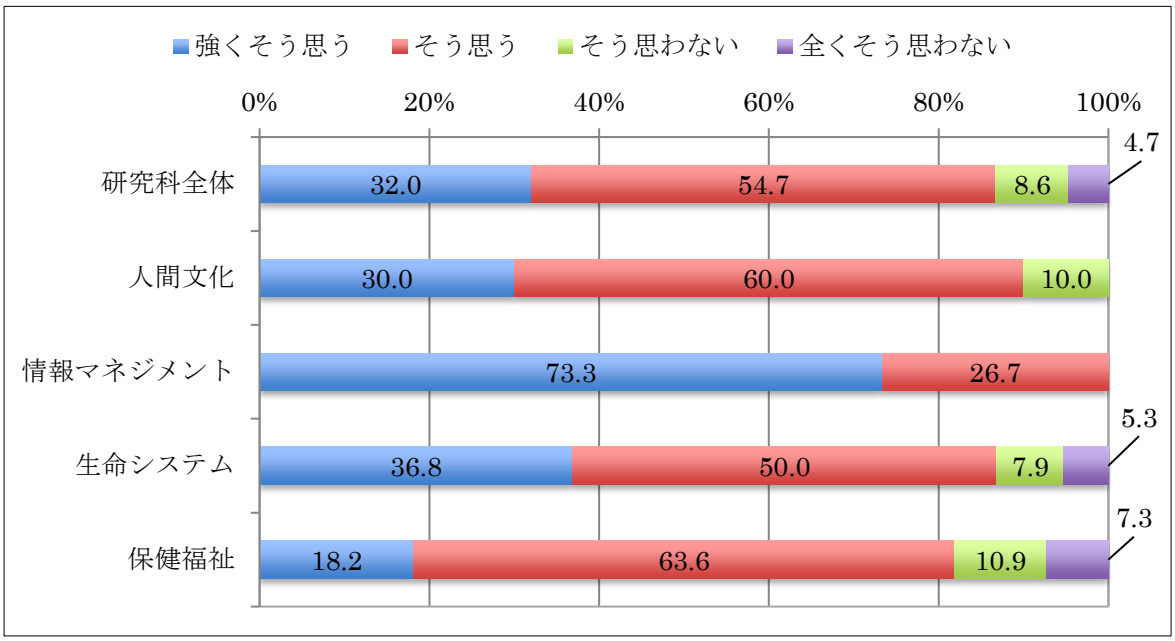
１４．あなたの研究環境（コンピューター）は、質・量ともに良好だ。



【備考】

研究科全体では、肯定的な回答が 78.1%であった。一方で、人間文化学専攻では 35%が「そう思わない」と回答しているので、研究環境（コンピューター）の充実について改善が求められる。

１５．あなたが使用できる大学院生としての研究用スペースは適切だ。

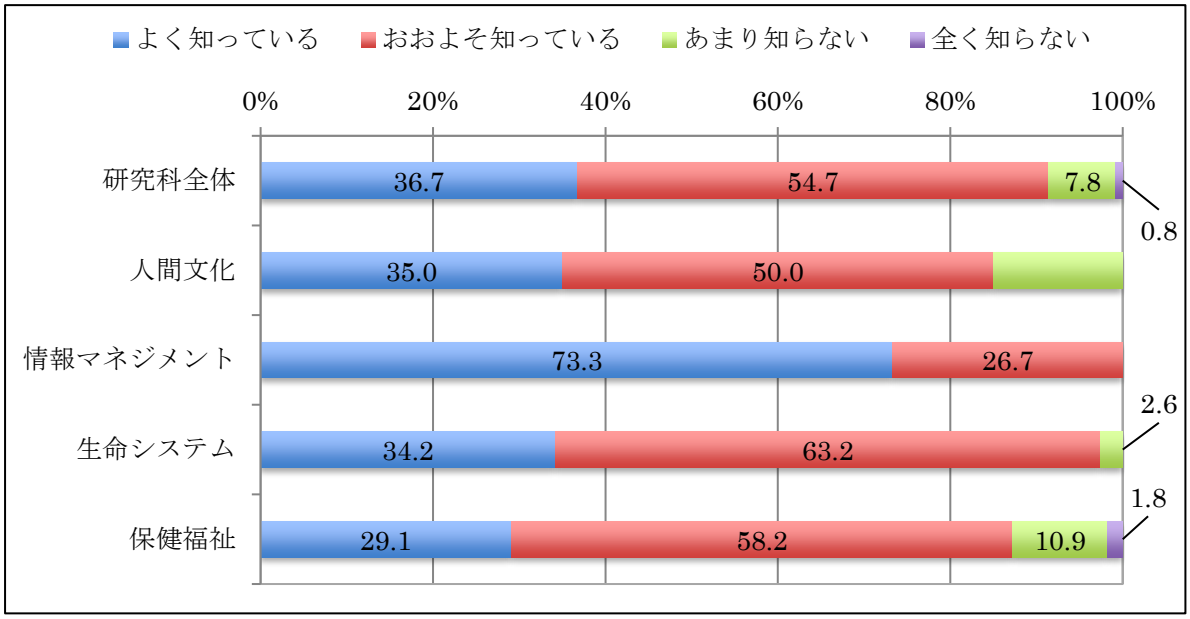


【備考】

研究科全体では、86.7%が肯定的に回答し、昨年（85.7%）とほとんど同様の結果となった。

【学位取得に関する理解に関する質問】

１６．あなたは在籍する課程において、学位を取得するためにはどのような前提条件を満たさなければならないか、研究科や専攻の規則や規程を知っている。



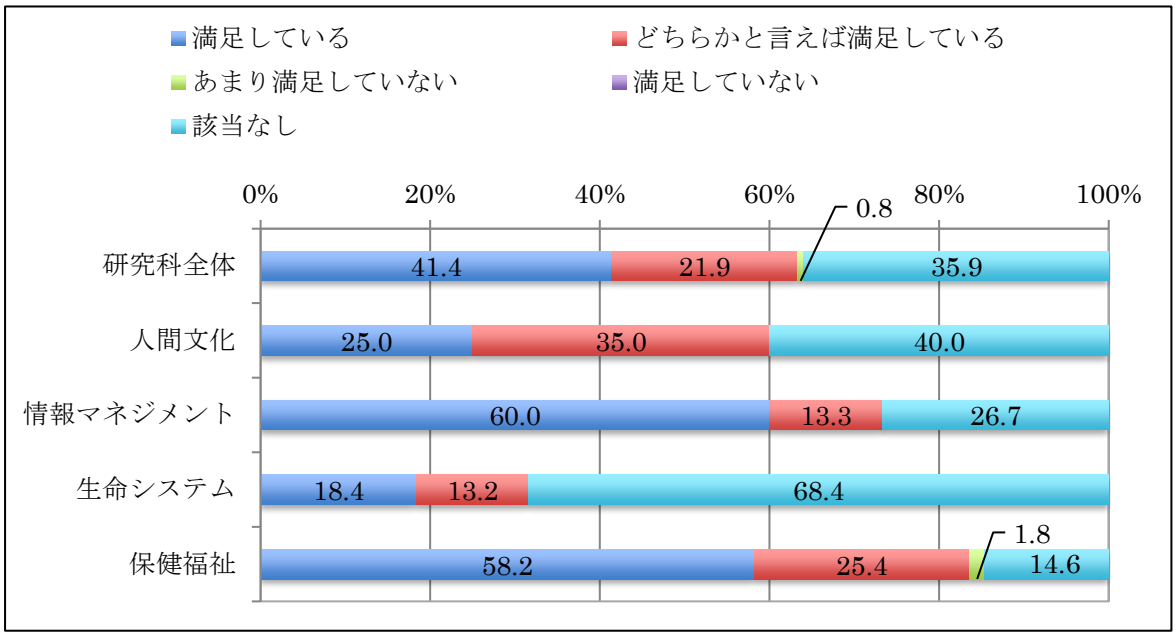
【備考】

研究科全体では、肯定的な回答は 91.4%であり概ね周知されている。

各専攻における「学位論文審査及び最終試験実施要領」及び「学位論文に係る評価基準」については、本学ウェブサイトに公開している。

【オンライン講義の満足度】

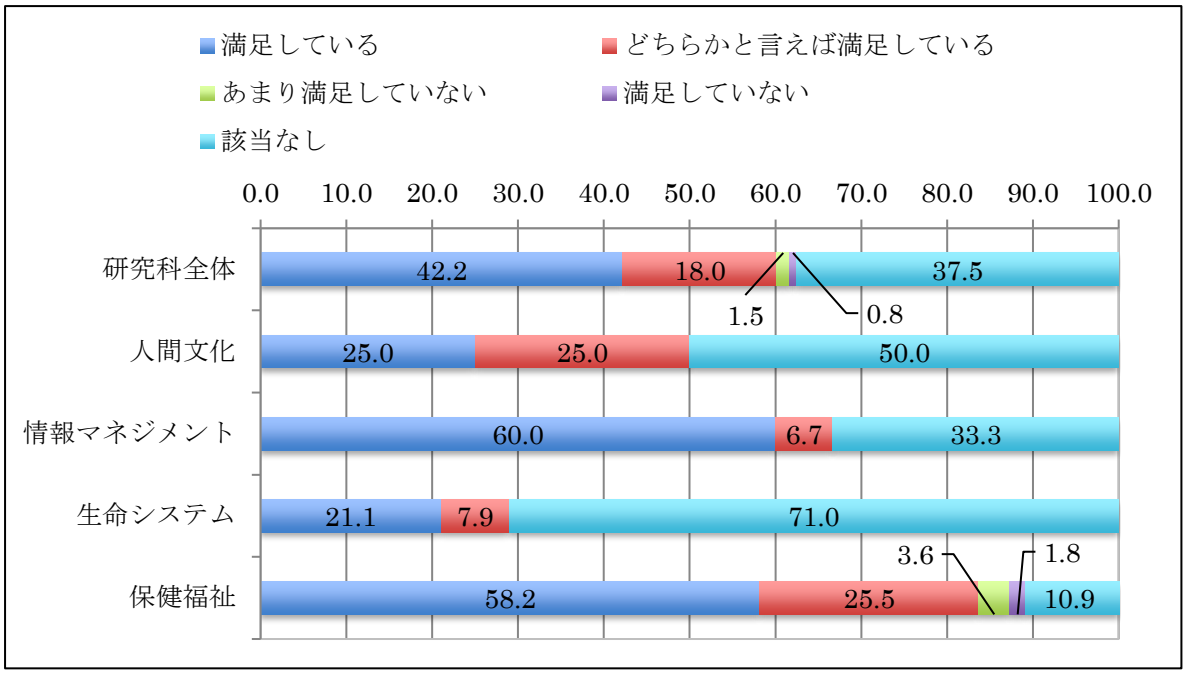
１７．今年度のオンライン講義の満足度（該当する講義があった場合）



【備考】

研究科全体では、肯定的な意見が 63.3%（該当なしは 35.9%）であり、概ねオンライン授業に満足している。

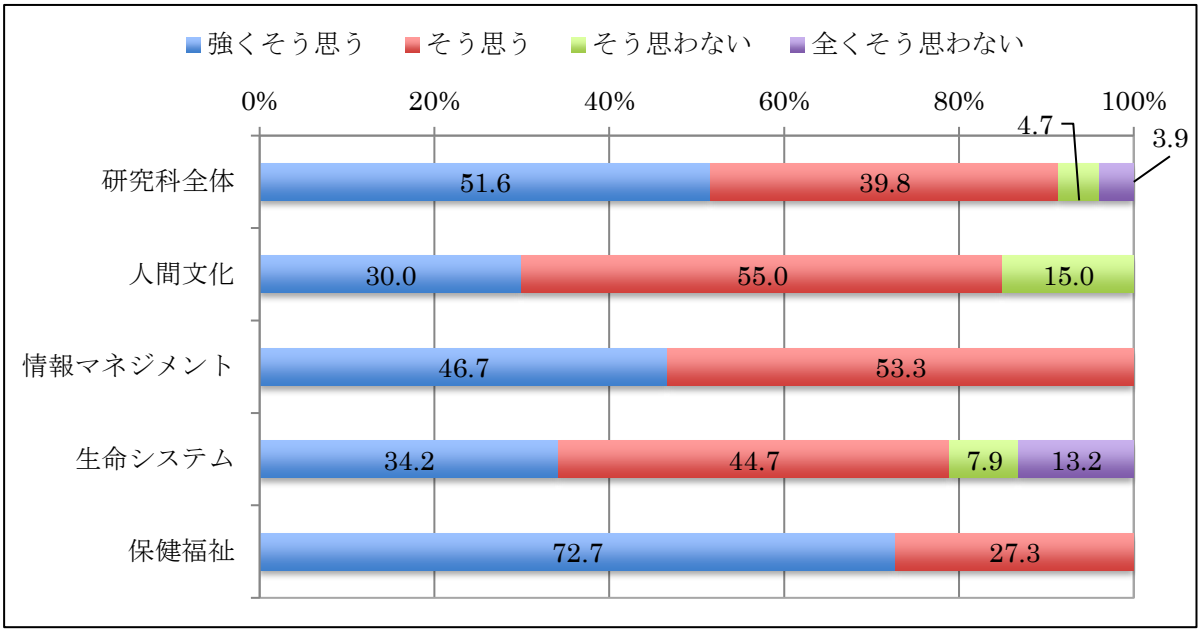
１８．今年度のオンライン研究指導の満足度



【備考】

研究科全体では、肯定的な意見が 60.2%（該当なしは 37.5%）であり、概ねオンラインでの研究指導に満足している。

１９．次年度以降もオンライン講義・研究指導形態を取り入れてほしいですか。

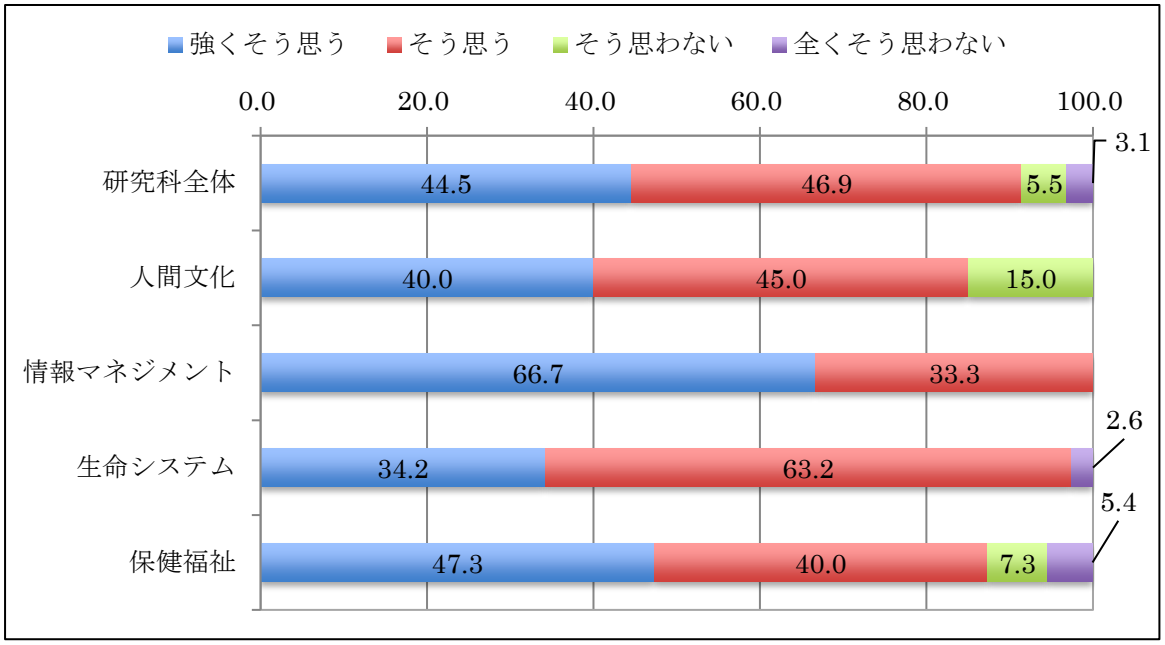


【備考】

研究科全体では、肯定的な意見が 91.4%であった。

【大学院に対する満足度に関する質問】

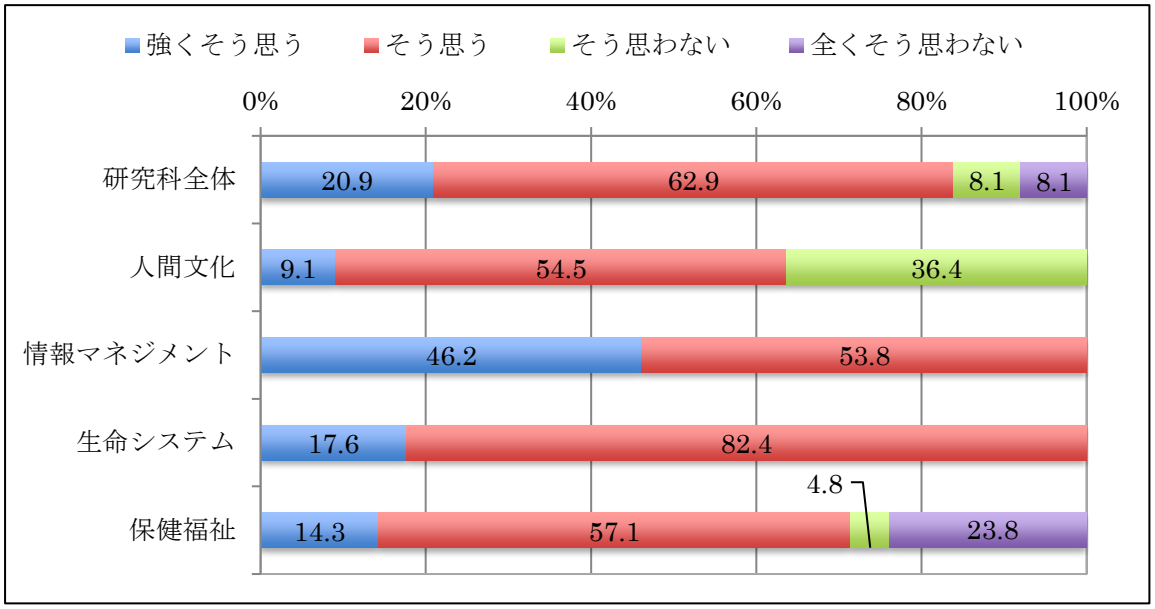
２０．あなたは総合的に判断して、この大学院に満足している。



【備考】

研究科全体では、肯定的な回答は 91.4%であり、専攻別でもいずれも 85.0%以上が「強くそう思う」「そう思う」に回答している。

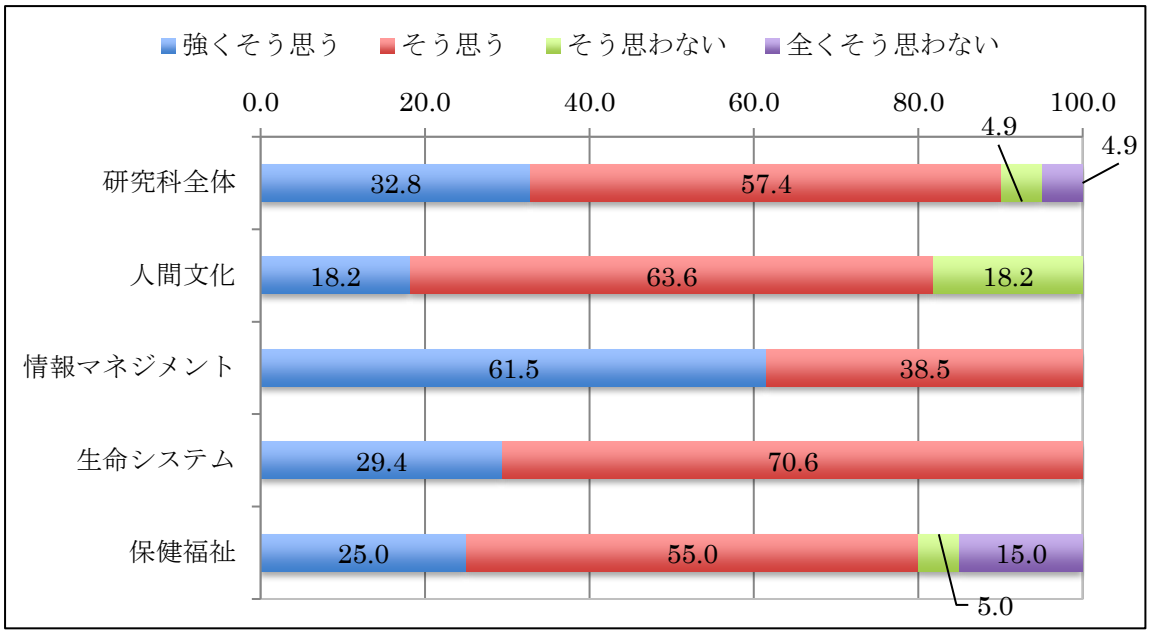
２１．本年度修了予定の院生のみに聞きます。大学院内での就職活動のサポート（ガイダンス等の案内、キャリアセンター利用、情報提供等）に満足している。



【備考】

研究科全体では、肯定的な回答は 83.8%であり、保健福祉学専攻の回答で 28.6%が「そう思わない」「全くそう思わない」を占めたことは、社会人学生が多く就職活動のサポートを利用する機会の少ない専攻の特性も一因と考えられるため、次項目と併せて回答項目の検討が必要か。

２２.本年度に修了予定の院生に聞きます。内定した就職先については満足している。

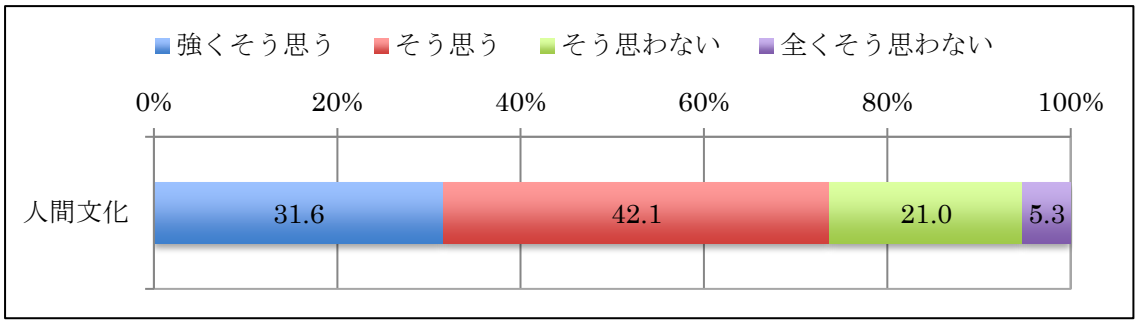


【備考】

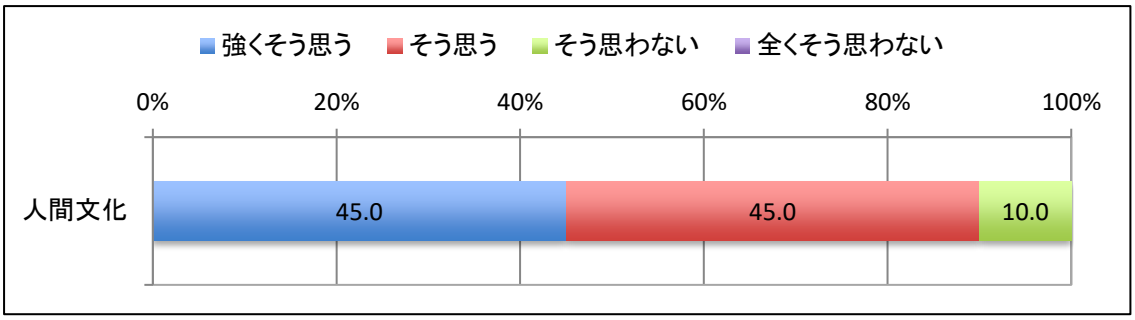
研究科全体では、90.2%が肯定的な回答である。

【人間文化学専攻独自の設問】

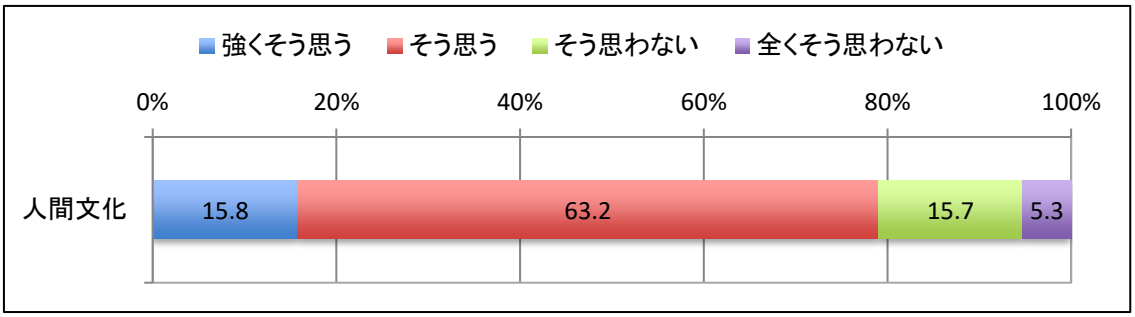
1．大学院生に対する支援事業（TA、研究活動支援）に満足している。



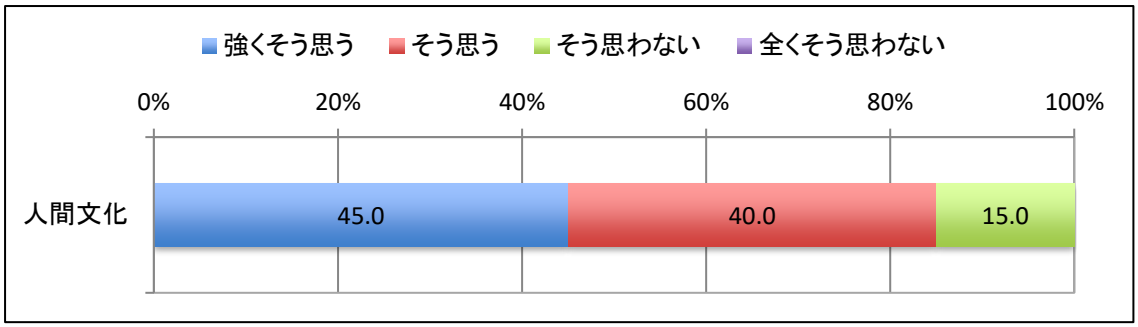
2．　授業の履修状況は、当初の計画通りである。



3．研究の進捗状況は、当初の計画通りである。

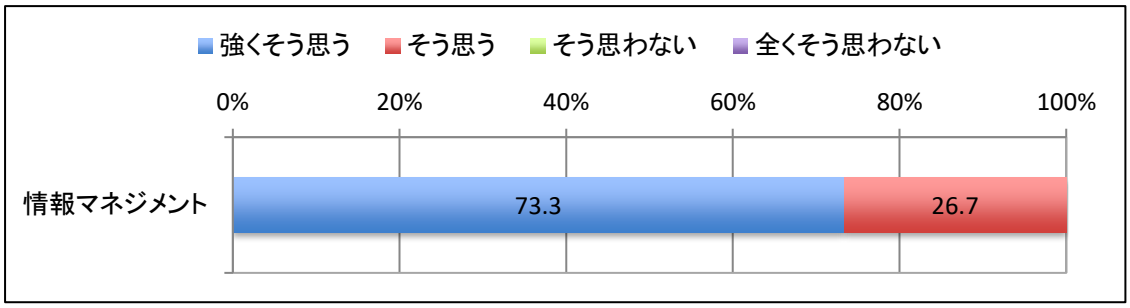


4．教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。

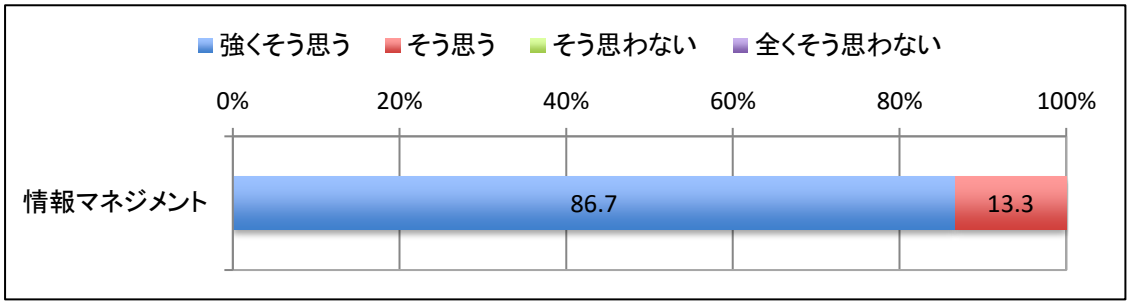


【情報マネジメント専攻独自の設問】

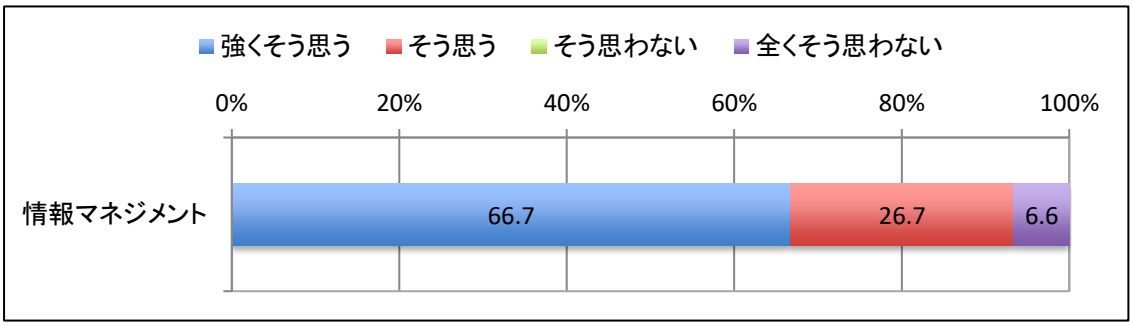
1．研究は計画通りに進んでいる。



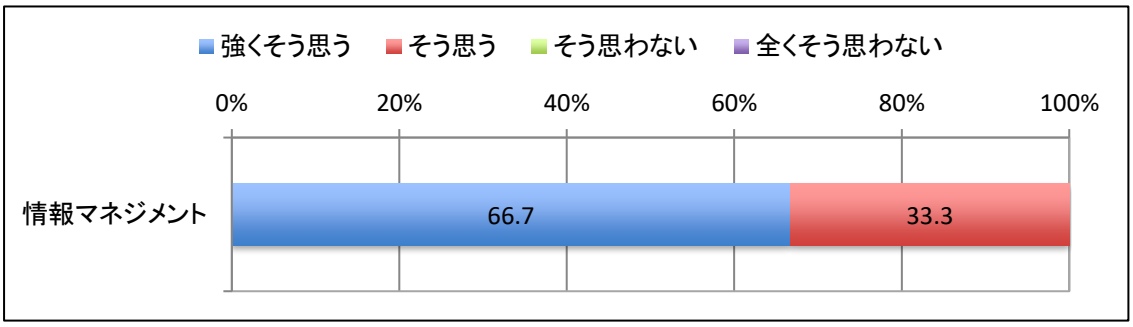
2．教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。



3．あなたの研究室の通信環境は、質・量ともに良好である。

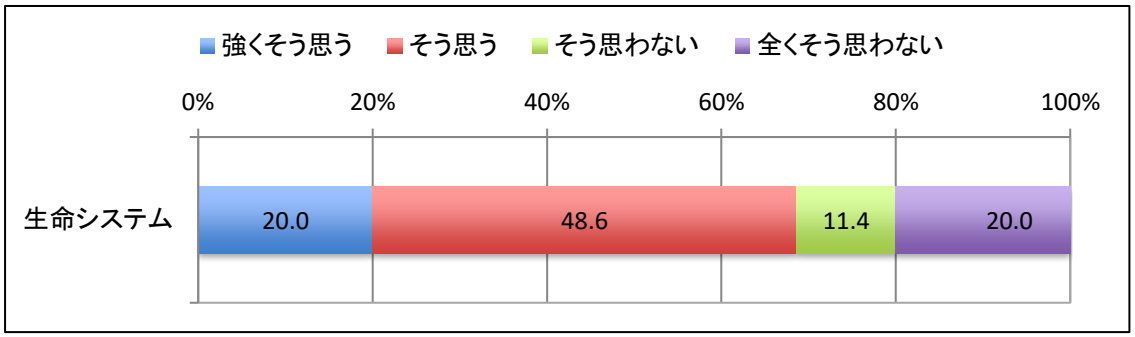


4．大学院生に対する支援事業（TA、研究活動支援）に満足している。

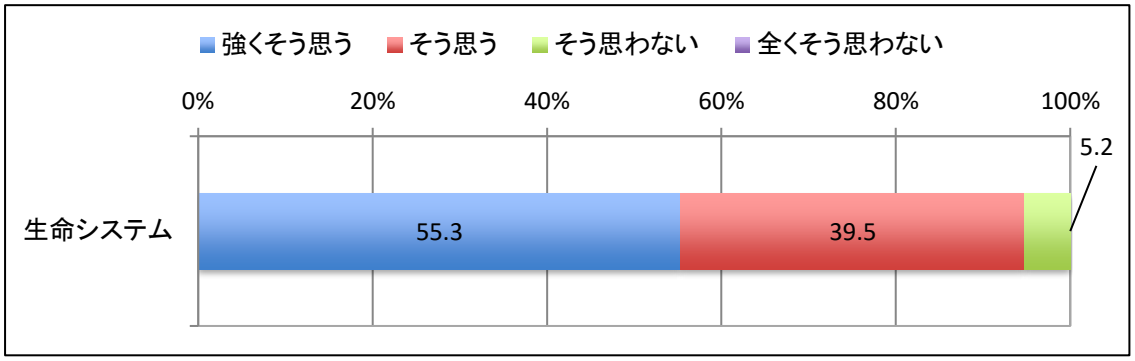


【生命システム科学専攻独自の設問】

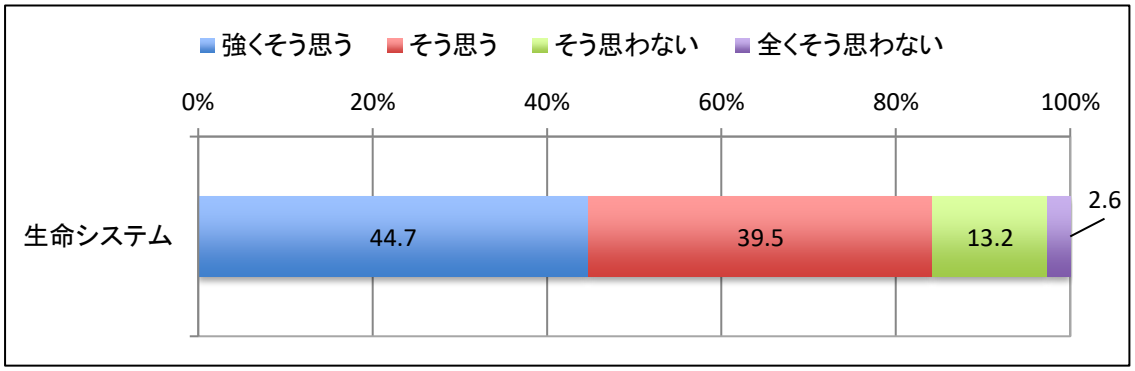
1．あなたの研究室の通信環境は、質・量ともに良好だ。



2．専攻における研究指導の体制（博士前期：主指導と副指導 1 名、博士後期：主指導と副指導 2 名以上）は現状で十分である。

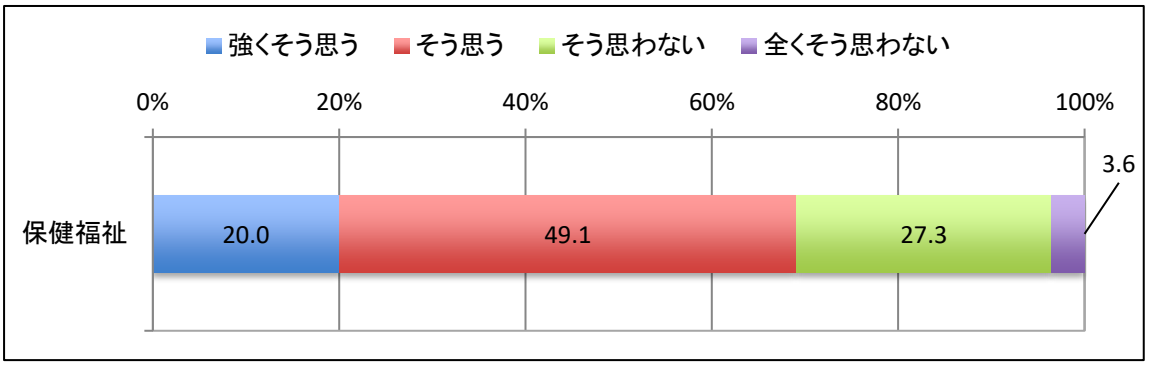


3．大学院生に対する支援事業[TA/RA、研究活動支援（学会参加等）、TOEIC-IP 受験料補助等]に満足している。

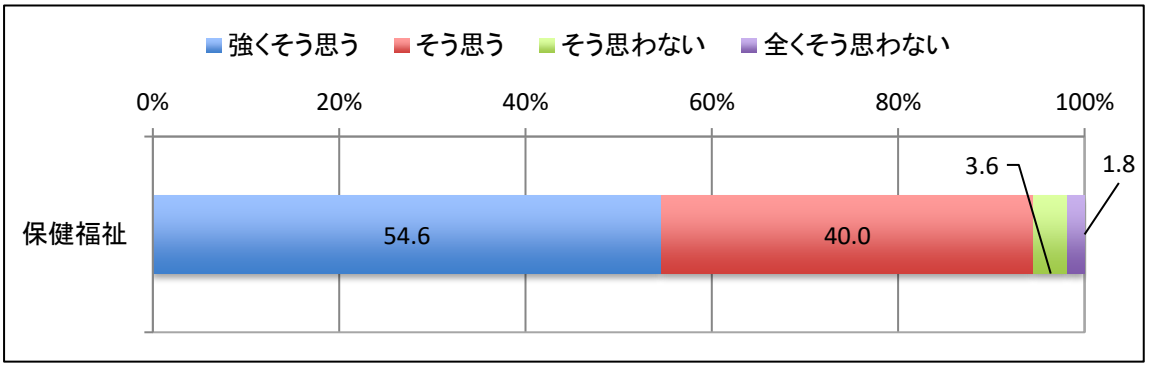


【保健福祉学専攻独自の設問】

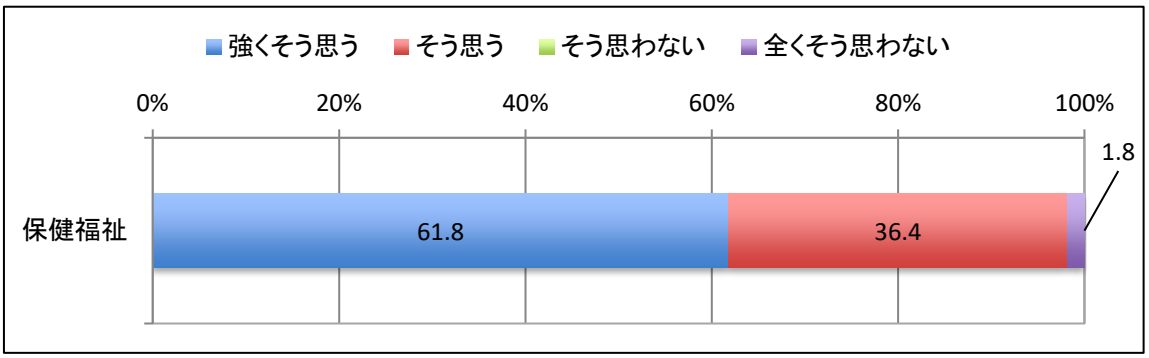
1．計画通りに学修が進んでいる。



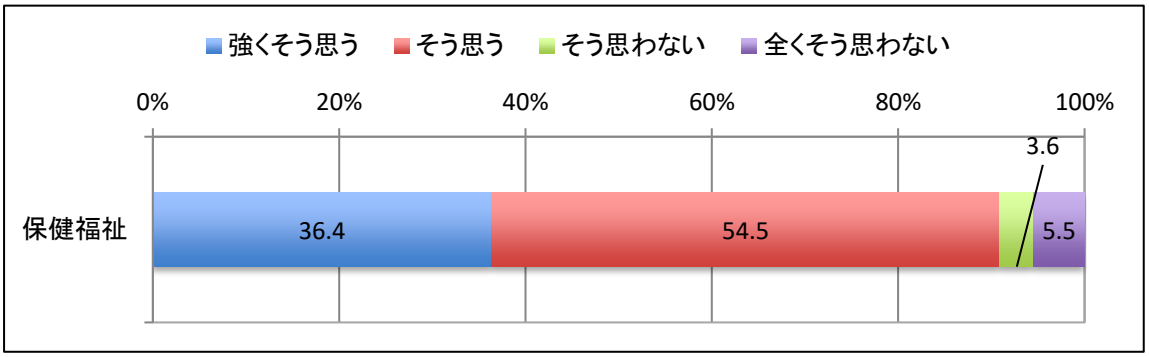
2．教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。



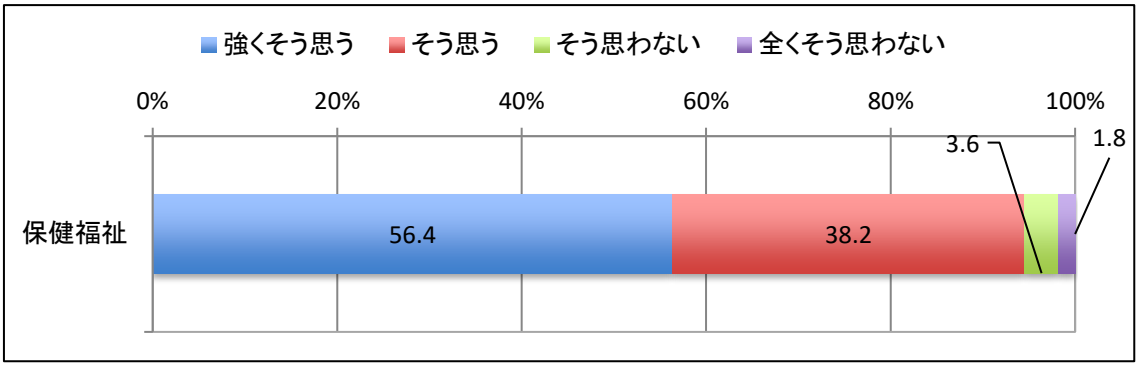
3．大学院での学修が専門職業人としての成長に役立つ。



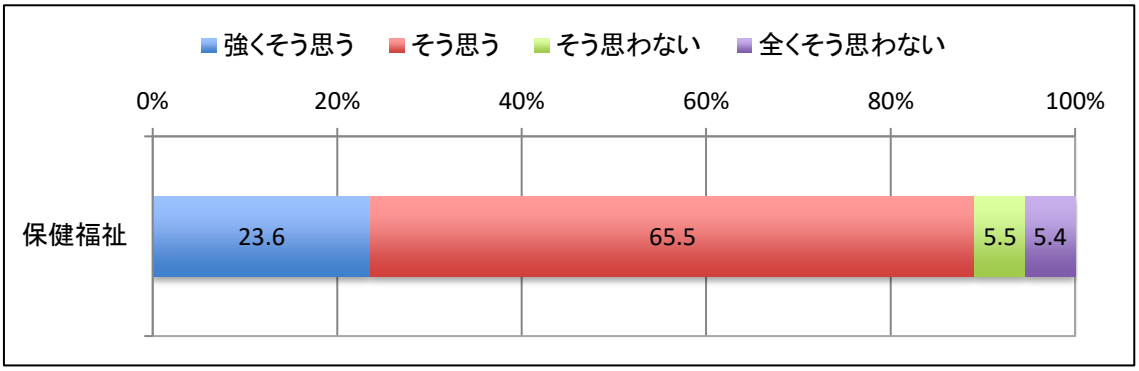
4．大学院での学修はリーダーシップ能力獲得に役立つ。



5．大学院での学修が保健医療福祉の専門職、あるいは教員としての研究能力向上に役立っている。



6．大学院生に対する支援事業【TA・RA、研究支援活動支援（学会参加等）】に満足している。



■ 総合学術研究科
■ 回答数　128 名
■ 回答率　87.1%　（128/147 名）

はじめに

毎年年度末に実施している「県立広島大学大学院総合学術研究科における大学院生の教育研究環境に関するアンケート調査報告」について、令和 7 年度実施分より研究科長および各専攻長からの総評も公開することと致しました。

みなさんからの回答を参考により良い教育研究環境の実現を目指してまいります。

【 総 評 】

総合学術研究科のアンケート回答率は 87.1%であり、昨年度（令和 6 年度）実施の 51.9%から＋35.2%と大きく増加しました。まずはアンケートに協力してくれた学生の皆さんに感謝申し上げます。研究科としてより多く学生からの声を集めたいという思いから各専攻に回答率の向上を依頼しており、今回の高い回答率の背景として各専攻長の尽力も大きかったと感じています。改めてこの場を借りて御礼申し上げると共に、次年度以降も引き続き多くの学生の状況を把握し、改善が進むよう努めて頂きたいと思います。

アンケート項目に目を向けますと【学習・研究・授業に関する質問】に関し、気になる点として一部の専攻において項目 3～7 で「そう思わない」「全くそう思わない」といった否定的な回答の割合が比較的高い点が見受けられました。こちらについては次年度改善を求めます。【成績評価に関する質問】、【研究指導に関する質問】についても同様の傾向が見られることから、併せて原因の究明と対応をお願いします。また、【研究環境に対する質問】については多くの回答項目で否定的な回答が 10～20%程度見られる。実験機器やＰＣ環境、図書などの充実を求める声が多いように受け取っており、各専攻において状況把握と対応を進めて頂きたい。研究科としても改善が進むように支援していきます。

【大学院に対する満足度に関する質問】については 91.4%が「強くそう思う」、「そう思う」という肯定的な回答でした。高いアンケート回答率(87.1%)を踏まえて考えると、多くの学生が満足する教育研究環境となっていることが推察されます。一方で一部否定的な意見もあることから、今回のアンケート結果を各専攻で分析し、一人でも多くの学生が満足し、成長を実感できるよう引き続き教育研究環境の改善に尽力していきます。

■ 人間文化学専攻
■ 回答数　20 名
■ 回答率　80%　(20/25 名)

【総評】
　本年度の授業アンケート回収率は 80%と概ね高水準を維持していたが、昨年度と比較するとわずかに低下した。その背景として、大学院生の 36%を社会人学生の長期履修者が占めており、業務等の都合により回答が難しい学生が一定数存在した可能性がある。
【学修・研究・授業に関する質問】では、学修時間や授業外学修への取り組みは昨年度よりやや減少したものの、全体として一定の水準は維持されている。社会人学生が長期履修制度を活用しながら、無理のない形で計画的に学習を進めている状況もうかがえる。一方で、授業目標の明確さや体系性、授業内容の整理、専門性の伝達に関する評価には低下が見られ、改善すべき課題が明確となった。今後は、授業目標の明確化およびカリキュラムの体系性の向上を重要課題と位置付け、シラバス記載内容の再点検や授業内容の可視化を進めるとともに、授業内外における教員と学生との双方向のやり取りを充実させることにより、理解度を的確に把握し、適切なフィードバックにつなげることで、教育の質の向上を図る。
【成績評価および研究指導に関する質問】では、成績評価に対する肯定的評価は 80%であり、概ね安定した水準を保っているものの、昨年度からやや低下した。このことから、評価基準の明確化と運用の透明性向上が課題として認識される。研究指導については 85%と総じて良好な評価が維持されており、研究テーマに対する満足度も高い水準である。今後は、評価方法に関する周知を一層徹底するとともに、指導内容の共有や面談機会の充実を通じて、研究指導の質のさらなる向上に努める。
【研究環境に関する質問】では、実験室や研究スペースに関しては概ね高い評価が維持されているものの、昨年度と比較するとやや低下が見られた。本年度は院生室への Wi-Fi 提供など研究環境の改善に取り組み、実際に利用されている状況にあるが、アンケート結果にはその効果が十分に反映されていない状況が見られる。また、図書およびコンピューターに関する評価は低下しており、特に図書については保有状況に大きな変化がない中で評価が下がっている点が課題である。今後は、利用実態および学生ニーズの把握を踏まえ、特に社会人学生の利便性向上に資する環境整備を進める。
【学位修得に関する理解およびオンライン講義に関する質問】では、学位取得要件に関する理解は概ね良好であり、オンライン講義についても高い満足度が示された一方で、継続に対して慎重な意見も一定数見られた。これを踏まえ、今後は多様なニーズに対応した柔軟な授業形態の検討を行う。
【大学院に対する満足度に関する質問】では、大学院全体の満足度は 85%と概ね良好であったが、一部に否定的な意見も確認された。特に、就職支援に対する満足度の低下が見られた。一方で、就職先に対する満足度は引き続き高い水準にあるものの、昨年度の 100%と比

較すると低下が見られる。本年度は、社会人学生が多数を占めるとともに、留学生や博士課程への進学者も含まれていることから、こうした学生構成の影響が結果に反映されている可能性がある。今後は、多様な学生層のニーズを踏まえ、本年度および過年度のアンケート結果を多角的に分析し、教育・研究環境の質的向上に取り組む。

■ 情報マネジメント専攻
■ 回答数　15 名
■ 回答率　100%　（15/15 名）

【 総 評 】

情報マネジメント専攻のアンケート回答率は 3 年連続 100%を得ることができ、学生の皆さんの協力に深く感謝申し上げる。

アンケート項目に着目すると、【学習・研究・授業に関する質問】、【成績評価に関する質問】では、授業目的の明確さ、内容の適切さ、教員の熱意、成績評価の適切さ等、すべてにおいて肯定的な回答が得られた。教育の質および評価の妥当性が維持されていることが確認できる。また、【研究指導に関する質問】に関する質問では、指導の適切さや研究テーマの満足度において、80%の学生が「強くそう思う」、20%が「そう思う」と回答した。全回答者が肯定的な評価を示しており、少人数教育の特性を活かした指導教員との緊密なコミュニケーションのもと、円滑な研究活動が行われていることが推察される。

【研究環境に対する質問】についても概ね肯定的であるが、Wi-Fi 環境の整備に関する要望など、一部で否定的な回答が見られた。これについては令和 8 年度より研究棟のネットワークが整備され、次年度以降の満足度向上に向けて注視していく。

専攻独自の設問を含め、大学院に対する満足度は総じて高い水準にある。今後も学生の活動状況を適宜把握し、対話を重ねることで、教育研究環境のさらなる充実と改善に継続的に取り組んでいく。

■ 生命システム学専攻
■ 回答数　38 名
■ 回答率　84.4%　(38/45 名)

【総 評】

生命システム科学専攻のアンケート回答率は 84.4%であり、昨年度（令和 6 年度）実施の 53.6%から約 30 ポイントと大幅に増加しました。アンケートに協力してくださった学生の皆さんに感謝いたします。次年度以降も引き続き多くの学生の状況を把握し、教育研究環境の改善につなげられるよう努めてまいります。

アンケート項目ごとに状況を整理いたします。

【学習・研究・授業に関する質問】では、半数近くの学生が 1 日あたり 8 時間以上を学修や研究に費やしております。本専攻では実験系の研究室が多いという事情もあり、多くの学生が熱心に取り組んでくれていることが反映されていると感じております。授業外学修への取組、授業目標の明確さ、授業内容の適切性、教員の準備状況や熱意などについて、全体として肯定的な回答が多く見られました(授業外学修の 79%を除き、それ以外の項目は 90%以上)。このことから、専攻における教育は概ね良好に実施されているものと考えられます。一方で、「先生方の講義(授業)もう少し詳しく教えて欲しい」という意見や、特定の講義について授業内容に満足できなかったという声もありました。授業の構成については、今後も継続的に点検し、改善に努めてまいります。具体的には、来年度からすぐに実施できるかは分かりませんが、教員による研究紹介の時間を増やすなどの改善を考えております。

【成績評価に関する質問】では、授業の成績評価は適切に行われているとの回答が 100%でした。今後も適切な評価をできるよう、取り組んでまいります。

【研究指導に関する質問】については、適切な指導が行われているとの回答が 94.7%、研究テーマへの満足度は 100%でした。一方で、「教員一人に対しての学生数が多いので、教員の学生に対する指導時間が取れていない場合がある（特にコース長など役職がある教員)」との意見もありました。副指導教員との連携などを通じて、十分な指導時間を確保するよう、努めてまいります。

【研究環境に対する質問】については概ね高評価でした。実験室、実験機器、図書、コンピューター、研究用スペースの各項目で、肯定的な意見が一番低いものでも 78.9%でした。しかしながら、購読ジャーナル数、研究室スペース、通信環境、夜間休日の空調などに関する意見を頂きました。ジャーナル（商業誌）の購読料高騰は本学だけでなく全国の大学を悩ませている問題であり、すぐには効果的な対応がとれないことを心苦しく思っております。オープンアクセスやアーカイブ等の活用を検討していただければと思います。研究室スペース、通信環境、夜間休日の空調については、改善に向けての努力を継続してまいります。また、留学生からは、より英語フレンドリーなキャンパス環境や学際的な研究環境を求める

意見もありました。各種アナウンスに英語を併記する、大学院生どうしの交流の機会を増やすなど、対応を検討してまいります。

【大学院に対する満足度に関する質問】については、肯定的な回答が 96.4%であり、多くの学生が本専攻の教育研究環境に概ね満足していることが示されました。また、大学院内での就職活動のサポート（ガイダンス等の案内、キャリアセンター利用、情報提供等）および内定した就職先の満足度については肯定的な回答が 100%でした。大学院卒業者の就職先については、できる範囲で情報を公開するようにいたします。

【生命システム科学専攻独自の設問】については、研究室の通信環境および大学院生に対する支援事業[TA/RA、研究活動支援（学会参加等）、TOEIC-IP 受験料補助等]の項目で否定的な意見がみられました。通信環境については上記のとおりで、来年度以降改善する見込みでおります。研究活動支援につきましては、金銭的補助の充実を求める声がありました。予算の制約がある中ではありますが、できるだけ多くの学生に支援が届くよう努力を継続してまいります。また、学生が応募できる奨学金や外部研究費の情報をホームページで公開しておりますので、それらへの積極的な応募を検討いただければと思います。

今回のアンケート結果を丁寧に分析し、より多くの学生が満足感を得るとともに、自らの成長を実感できるよう、今後も教育研究環境の充実と改善に努めてまいります。

■ 保健福祉学専攻
■ 回答数　55 名
■ 回答率　88.7%　(55/62 名)

【総 評】
保健福祉学専攻のアンケート回答率は 88.7%であり、昨年度（令和 6 年度）実施の 33.3%から＋55.4 ポイントと大幅に増加した。まず，アンケートに協力してくれた学生の皆さんに感謝いたします。次年度以降も引き続き多くの学生の状況を把握し、教育研究環境の改善につなげられるよう努めてる。
アンケート項目に着目すると、【学習・研究・授業に関する質問】では、授業外学修への取組、授業目標の明確さ、授業内容の適切性、教員の準備状況や熱意などについて、全体として肯定的な回答が多く見られました。このことから、専攻における教育は概ね良好に実施されているものと考えられます。一方で、各項目には一部否定的な回答も見受けられたことから、授業の構成や学修支援の在り方については、今後も継続的に点検し、改善に努めていきます。
【成績評価に関する質問】および【研究指導に関する質問】についても、肯定的な回答が多く、成績評価や研究指導は概ね適切に行われていると考えられます。また、研究テーマに対する満足度も高く、学生が自身の研究に意義や納得感をもって取り組んでいることがうかがえます。他方で、専攻独自設問では、「計画通りに学修が進んでいる」との回答において一定数の否定的意見が見られました。そのため、社会人学生を多く含む本専攻の特性も踏まえ、履修や研究の進行を支える柔軟な支援体制について検討していきます。
【研究環境に対する質問】については、実験室、実験機器、図書、コンピューター、研究用スペースのいずれの項目においても、一定数の否定的な回答が見られました。特に、図書、コンピューター、研究用スペース等については、学生が日常的に利用する教育研究基盤として重要であることから、専攻として現状を丁寧に把握したうえで、必要に応じて改善を進めていきます。
【大学院に対する満足度に関する質問】については、87.3%が「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、多くの学生が保健福祉学専攻の教育研究環境に概ね満足していることが示されました。また、専攻独自設問では、大学院での学修が専門職業人としての成長、リーダーシップ能力の獲得、研究能力の向上に役立っているとの回答が非常に多く、本専攻の教育が実践的かつ発展的な学びにつながっていることがうかがえます。一方で、少数ではあるものの否定的な意見も見られたことから、今回のアンケート結果を丁寧に分析し、より多くの学生が満足感を得るとともに、自らの成長を実感できるよう、今後も教育研究環境の充実と改善に努めていく。